

大地震が発生したらまず自分の身を守る
揺れが収まったら真っ先に火の始末で火災防止

2019年2月1日発行
柳谷戸支隊 情報・広報班



防災隊は今年で7年目を迎えました。私達は防災知識・方法について手順・手法を繰り返し練習してきましたから、地震や豪雨などには敏感に反応する体質が備わってきたと自覚しておられるものと思います。

この敏感な反応は「もし災害が生じたらまず何をどうするか」という自問自答につながります。どんな事柄でも「もし災害が生じたら」と考えると「どう配慮すべきか」が決まると思います。「包丁は使ったらすぐ収納」は、「地震発生時の怪我防止」東京防災 p021, 暮らし p35 につながります。

『つぎの配慮は防災（減災）対策として、なぜ必要なのか』のテスト2

2	下の①～⑧はなぜ必要なのかを考えてみてください。		
	①勤務先に近いコンビニを複数憶えておく。	—	⑤棚を固定したら、棚の扉が勝手に開かないようにストッパをつける。 東京防災 p 101 暮らし p 40
	②勤務先にスニーカーを置いておく。	東京防災 p ? 暮らし p 22	⑥キッチン作業開始のたびに「揺れたらどちらへ逃げるか」を思い出す 東京防災 p 020-1 暮らし p 100
	③勤務先に携帯用リュックサックを置いておく。	東京防災 p ? 暮らし p 22	⑦寝室で起き上がる足元には厚底のスリッパか普段使っていない靴を準備しておく。 東京防災 p 023 暮らし p 28
	④冷凍庫は満杯にしておく。	—	⑧コンビニでは買い物かごを持歩く。 東京防災 p 034

解答例；①強い揺れ等で交通機関が止まりそうだったら、飲食料を手に入れておくため。②高層階段を降りたり徒歩帰宅したりするため。③徒歩帰宅するため。④停電時保冷延長対策、保冷剤や氷で良いから満杯に。⑤棚が倒れないと中身が全部床に落ちる。⑥キッチンは危険地帯、素早く安全な場所へ。⑦寝室を出るときにガラスの破片で怪我しないように。⑧地震で揺れたら頭の保護に。右列にある東京防災や東京暮らし防災のページを読んで参考にしてください。

『避難所でのペットとの過ごし方』について

幼い子供が成長していくに従って親や周囲は将来子供が自立していけるように、特に子供が家庭内から外へ出て色々な環境に自力で適合していけるように教育します。場合によって訓練します。ペットは成長してもペットである限り自立はしないかもしれません。特に外出がまれな環境で育っている場合には、避難所へ主人と一緒に移ることを拒否するかもしれません。

町田市の広報紙「ペットタウンまちだ」は不定期発行で配布場所も小川の近辺にはありませんが、支隊内の回覧板に挟まれて回覧されることがあるので小川自治会は配布希望申込済だと思います。詳細なパンフレットは色々あるようですが、ピンク色の小冊子でおなじみの東京暮らし防災の解説「避難所でのペットとの過ごし方」が無駄なく基本を網羅しているように思えます「暮らし p154~157」。被災時に適合するためのペット対策とは、むりやりに避難所へペットと一緒に連れて行かねばならないというだけのものではありません。